新春知事対談（福井テレビ）

このページは、令和５年１月３日（日）に福井テレビで放送された新春知事対談番組の内容をまとめたものです。

番組では、舘直宏（たち・なおひろ）さん（ＮＰＯ法人おっとふぁーざー　代表理事）、笠原理紗（かさはら・りさ）さん（福井に住む県外女子チームＺＵＫ　代表）を招いて、安心して子育てできる「ふく育県」の取り組みや移住定住についての取り組みについて語り合いました。

**（幸福度ランキングについて）**

【司会】

今回のテーマは「福井が嫉妬する！こう覆土・子育て日本一のふくい」ですが、日本一といえば、今年度発表された「都道府県別幸福度ランキング」では福井県が5回連続で幸福度一位でしたね。知事、この結果をどのように受けとめていらっしゃいますか。

【知事】

素直にまず、うれしいですね。

５回連続というのは、実は２年に1回発表されますので、これで１０年連続で日本一ということになります。

特に、教育の面、それから仕事の面ということで、福井県が大切にしているところが日本一になってますし、生活面もトップクラス、健康面も大変上位ということで、私も全国を転々としながら生活してきましたけれども、やっぱり福井は、いろんなデータに表れているように、とても住みやすい、幸福度が高いところだなっていうふうに感じています。

【司会】

他の都道府県と比べても圧倒的なデータということも伺っています。

【知事】

そう思いますね。

【司会】

やはり舘さん、笠原さん、福井県が幸福度ランキング一位というのは、住んでいる私たちも誇らしいですよね。

【舘】

　そうですね、すごく誇らしいです。

【司会】
お二人は、福井に住んでいて、幸せだなと感じるところや好きだなと思うところはありま

すか。

【舘】

私は、スイカとかメロンとか、あと柿、梨、イチゴといった、芦原を中心に、フルーツ

がすごく豊富なところ。それと、福井の越前海岸に泊まったときに、夕日が海に少しずつずつゆっくりと沈んでいく姿を見たときに、何かこのゆっくりとした幸せな時間っていうのをやっぱ家族で過ごせること、それとこのやっぱ日本海側だからこそ見れる景色がいいですね。

【司会】

やっぱり食も景色も本当に魅力的ですよね。

笠原さんはいかがですか？

【笠原】

私は水と空気のきれいさです。そして、それを作り出してる豊かな自然環境っていうのが本当に素晴らしいなと思っていて、春・夏・秋・冬で見せてくれる景色が違うので、当たり前にそういう日常があるっていうのが、日々「あっ、いいなあ、この景色」という感じです。

【司会】

　　笠原さんは　神奈川県から福井県に来られたということで、やはり都会と比べても

全然違うんですかね？

【笠原】

　　そうですね、水と空気は全然違います。水は、地元（神奈川県）にいる時は普通に飲んでたんですけど、今、地元に帰って水道水を飲んだ時に、「あれっ！？」と思って。「こんなにおいしくなかったっけ？」っていうふうな感じで、普段どれだけきれいな水を飲んでるのかなって思いました。

【司会】

知事、お二人の言葉うれしいですね。

【知事】

　　とてもうれしいですよね。ずっと福井で育ったり、生活されていて実感としてそう思っていただいているので。

【司会】

知事は、福井県のどんなところが好きだったり、幸せを感じたりしますか？

【知事】

やっぱり、福井はいろんなものが本物だと思いますね。

今おっしゃっていた夕日もそうですし、水や空気など、そういった自然環境もそうですし。食べるもので言えば、「越前がに」はもちろん、「いちほまれ」も素晴らしいし、そば日本一もありますね。見るところでも、三方五湖なんかは最近、本当にきれいになって、絶景だなという感じですし、また東尋坊のように日本でみんなが知っているような場所だったり、恐竜もみんなが自慢できるようなものです。伝統工芸も、和紙や漆器は１，５００年前からですから。こういうものがどこにでもあるという、そういうものに囲まれている。周りから見るとすごいんですが、中にいるとそれが普通になっているので、逆に言うとそれが素晴らしいと思いますね。

【司会】

食、歴史、自然、福井は本当に魅力的なところがたくさんありますし、北陸新幹線の県内開業までまもなく１年ですから、この魅力をもっと県外の人にも発信していけるといいですね。

【知事】

そうですね。それとやっぱり、もうひとつあるのは、私も外から福井に来て思うのは、

人がまた素晴らしいですよね。まず誠実。誠実なんですけれど、よく福井の方は引っ込み思案で表にいろいろ出さないんですと、こういう話になるんです。実はそうではなくて、

結構、で。あと、他の場所で暮らした経験から見ても、前向きでくよくよしない楽観的な感じもあって、そこがとても過ごしやすいですね。

**（移住・定住施策について）**

【司会】

　やっぱり人のつながりというのもあたたかいですし、深いですしね。強いですもんね。

さあ、ところで、こちらのポスターをご覧ください。「都会が嫉妬する県」 ということで、福井県が都会に自慢できるところが表現されています。ひとつずつご紹介します。「ド近所がアクティビティ」そして「満員電車、なし」「保活、不要」「畑がデフォルト」「スーパーがスーパー」。遊び、仕事、子育て、住まい、暮らしを切り口に作成されているんですけれども、表現がおもしろいですよね。知事、どのような思いでこのポスターを作成されましたか？

【知事】

これまず「福井県」という言葉が出てこないんですよね。福井県は、さっきも申し上げましたけれども、とても本物がある。みんなが来てみれば、それに触れてみれば普通に感じられるというところがあるわけで、そういうことからいうと、福井県、福井県と前に出さないで、この言葉を聞いてみんながビビッとくる、そういうところをまず狙いました。

これ以外にも、今、県が力を入れているのは、こんなところに移住してみませんか？というような意味で、例えば、「育児中に仕事を辞めなくてもいい女性の比率が東京の約半分のこんな県に移住してみませんか？」とか「ここに移住しないと６０歳までに東京にいる時よりも３，６００万円損しますよ」とかこういう皆さんの背中を押すようなＰＲ、発信をしているところです。

【司会】

笠原さんは移住されてきましたが、このポスターを見ていかがですか？「あっ、そう

だな」と思われるものはありますか？

【笠原】

　　全部思うんですが、私は特に「ド近所がアクティビティ」というのがまさにそう思って、夏休みとかに川遊びに行かせるんですけど、都会だと、プールを家でやるんですけど、プールに水ためて、あっためて入れるようになるまでの時間があったら川に行ったほうが早いので、まさにそうだな、っていう感じです。

【司会】

　　舘さん、福井に住んでいる私たちからすると、普通に見る光景のようにも思いますけれども、いかがですか？

【舘】

　　私も最初、このポスターを見た時に「何が？」と。自分たちにとって普通というか　当たり前っていうところが書いてあったので、びっくりしたんですけれども、よくよく見ていくと「そうか、これが本当の福井の魅力なんだ」とか、「外に出たことがないからこそ

分かっていないんだ」って魅力だと気付きました。私は、「スーパーがスーパー。」という

あのポスターが大好きで。魚が丸ごと売っているとか、その場でさばいてお刺身にしてくれるとか切り身にしてくれるというところなんかを見ていると、食のテーマパークのような感じじゃないかなと思います。自分たちって当たり前なんだけど、県外の人たちは当たり前じゃないんだ、福井の魅力なんだって気付くことができました。

【司会】

ちなみに知事、今、福井県を移住先、定住先に選ばれる方は増えていますか？

【知事】

　　増えていますね。例えば昨年度で言いますと、県とか市や町の相談窓口に移住してみたいんだけど、検討しているんだけど、とご相談いただく件数が全国で６番目。それで　年々「新ふくい人」といいますけれども、県や市町が応援しながら移住していただく方、

これがついに今１，０００人を毎年超えてきている。その内しかも６割の方はＩターンです。それから、また１，０００人全体の中の６割は２０代、３０代の子育て世代なんです。

【司会】

　びっくりです。２０代、３０代の方が多いんですね。

**（「ふく育県」について）**

【知事】

多いんです。だから、福井県の子育てのしやすさ、教育もそうですけれども、注目を

集めてきているということを実感していますね。さて、このポスターの中にですね。「保活、不要」というものがあります。「保活」とは、 子どもを保育園に入れるため保護者が行う活動のことで、待機児童の多い都会では、保護者の方がかなり苦労をされています。福井県では、この保活がいらない環境があるということです。

　そして、先ほどご紹介しました幸福度１位ということには、教育や子育てが充実していることが大きく評価されています。

　知事も常々、子育てに力を入れていくとおっしゃっていらっしゃいますけれども、どのような思いでこの子育て支援に取り組まれていますか？

【知事】

　とにかくまずは、社会が発展するというか、福井県がもっと元気になるという意味でも「子育て」。 それから子どものうちに、いろんな教育がきちっとできていると、その子どもの人生も必ず良くなっていく。だから子ども目線の子育て。親が環境をつくっていく。親が子育てする環境を良くしていく、こういうことをしていくことは、子どもの成長、地域の成長、社会の成長につながるというふうに思いますね。「ふく育県」ということで、今、一生懸命やらせていただいています。

【司会】

　「ふく育県」ですね。どのように「ふく育県」を進めていきますか？

【知事】

それこそ笠原さんや舘さんのような若いお父さん、お母さん方にいろんなお話を伺う

と、とにかく子育てで大変なのは、お金と時間と体力が足りない、とこういうふうに言われるんですよね。だからそういう意味では、子育てする時には、まずは負担を軽くする。それから子育てを楽しくする。そのうえで、子育てをすると得をするぐらいの、そんな形にできればいいなということで、いろんな施策を今考えているところです。

【司会】

　軽く、楽しくそして　得する。ワクワクするような響きですよね。具体的には　どう

いった取り組みをされていますか？

【知事】

　　軽くするということで言えば、経済的負担がいちばん大きいということで、２人目のお子さんから０～２歳の保育料なんかも無償にしていくということもやっていますし、今年度からは、不妊治療の先進治療も含めて、１回６万円までで治療が受けられるようにするとか、あとは幼児の医療費の無料化。こういうこともやらせていただいています。

本当に、今言った「ふく育県」というのをこれからさらに全国でＰＲをして、特に都会の皆さんが移り住んでみたい、ここで子育てしてみたい、そういうようなＰＲも力を入れていきたいと思っています。

【司会】

　　舘さんは、子育てに関するお仕事されていますし、３人のお子さんのお父さんでも

ありますが、知事の思いや県の「ふく育県」を目指した取り組みについてはいかがですか？

【舘】

　　親としては、やはり第３子以降の保育料の無料化であったり、あとは医療費が中学生ま

　で無料化されているところが、本当に経済的に非常に助かっています。そういった取り

組みは全国的にも進んできていると思うんですが、やはり福井県ってトップクラスだな

っていうのは、いろんなものを見ても実感します。そのうえで、やっぱり僕は子育てをし

ていくのって、すごく長い期間していく。１０年２０年ってやっていくので、やはり、「軽

く、楽しく、得する」というその３つのキーワードの中、そして特に「楽しい」っていう、

「頑張る」じゃなくて「楽しい」。「頑張る」はやっぱり続かないので、１０年２０年、子育てしていく中では「楽しい」っていうものが本当に浸透していく、そういった取り組みが今後も増えていくといいなというふうに思っています。

【司会】

　笠原さんも３人のお子さんのお母さんで子育てをされていますけれども、「ふく育県」の取り組みについて、いかがですか。

【笠原】

　　「保活、不要」というのは間違いなくて、私が住んでいる池田町で１個しかこども園がないので選んだりすることはできないんですけど、でも、４月入園にとらわれることもないので、子どもの誕生日を起点に、１歳で入れたいとか２歳から入れたいとか、そういうふうな感じで対応してもらえるっていうのがすごく大きいなと思って。都会とかだと　１２月に産んで４月に保育園などに入れなきゃいけないというのを聞いてたりすると、生後４か月の子どもで、産んで４か月で預けて働くって、かなり大変だなって思うんですが、そういったことも福井県ではないですし。育休とか取ってるママたちも、会社に「もう復帰しなさい」と言われるというよりかは、いつまで自分が休みを取りたいというのをちゃんと主張して、会社に合わせてもらってる。その制度に自分が合わせなきゃいけない　というよりかは、合わせてもらってのびのび子育てしてるんだなというイメージがあるので、そういったのもすごくいいなって感じてます。

【司会】

　　実際に子育てされている方も子育て環境が充実していると思われているようですね。

　知事、今後さらに充実させていきたいことはありますか？

【知事】

　　今のお話は、家の中のお話で子育てを、家事を分担するというお話もあったり、あともうひとつ、社会の仕組みとして保活不要にしていくというようなこともやっていくんですけれど、もうひとつ、実は福井県は、おじいちゃん、おばあちゃん３世代同居式の子育てを結構今までやってこられていると思うんですね。だから、子どもを預けるのをおじいちゃん、おばあちゃんだと気楽に預けられるんですけれども、これからＩターンが増えてくる、それから核家族が増えてきて、親から少し離れたところにいなくちゃいけないということも出てきますので、Ｉターンの核家族の皆さんも安心して子育てができるというのを大きなキーワードにして、今やっております。例えば、ベビーシッターさんのように　ある時「きょうは　子どもの面倒を見ていてもらえませんか？」とかあとは、子育て支援タクシーで「ふく育タクシー」というんですけれども、お子さん１人でも安心してちゃんと研修を積んでいただいたドライバーさんがどこかへ子どもを連れて行ってくれるとか、こういう今ないサービスも福井県の中でつくって広げていければと思っています。

【司会】

子育て支援タクシー、すごく画期的な取り組みですよね。

【知事】

　　できるだけ親御さんの目線で、お子さんの目線でものを考えていこうというふうに思

っています。

【司会】

　　まさに子育て日本一の県にするための取り組みをこれからも進めていくということですね。

【知事】

　　そうですね。一生懸命やります。

【司会】

　　笠原さんは「ふくい移住サポーター」を務めていらっしゃいますが、移住を考えていらっしゃる方からすると、子育てが充実しているというのは、やはりとても魅力的なことですか。

【笠原】

　　そうですね。私はもともと、町おこしに携わりたくて移住してきてて、町おこしベースで考えていくんですが、自分が子育てしてみて、やっぱり高齢化とか人口減少を緩和していくというところでは、子育て世代というのが重要なポイントとなってくると思います。福井で子育てがしたいなあというふうに思ってもらえて、福井でだからこういう子育てができるというふうに思ってもらえることで、それを続けていくこと、あと選択肢を広げていくことというのがすごい大切なんだなというのを感じてます。

【司会】

　　まさに笠原さんのお言葉にもありましたけれども、子育て政策を進めていくことは、

人口減少対策にもつながっていきますよね。

【知事】

　　そうですね。人口減少対策という意味でもそうだし、それから福井に移住してくれば、もれなく幸福度日本一の環境で生活ができるわけですから、日本中の幸福度がだんだん

上がっていくわけですよね。そういう意味では、全国の人口減少も含めた対策になりつつ人間みんなが幸せになっていく、というので、とてもいいことだと思っていますね。

【司会】

舘さんは、お子さんが産まれた時に育児休業を取得されましたが、育児休業を取ってみ

　ていかがでしたか？

【舘】

いやもう本当にこれひと言で言うなら、控えめに言っても「最高！」だったんです。

　やっぱり育児休業取ったことで、出産のダメージを受けている妻のサポートをしたり、　あとは授乳とか夜泣きとか寝不足になっているところをサポートしたりっていうところはもちろん、あとは家族の時間が増えたのはすごくよかったんですけども、子どもたちを毎日見ているんだけども、子どもたちの成長で気付いていなかったことであったり、ちょっと見過ごしていたというところも気付けた。もちろん　生産性とかいろんなものが上がる。プラス家族の満足度も上がるということで、もう…いいことずくめだったというふうに思っています。自分も第３子の時に取りましたけど、「しまった～、第１子の時から

取っとけばよかったな」と思っています。これから取られる方に「本当にいいですよ」というのを、もっともっと伝えていきたいなと思っています。

【司会】

　　知事、舘さんの育児休業のお話、どのようにお思いになりましたか。

【知事】

　　それこそ舘さんのそういうお話を伺って、県でも今、一生懸命、男性の育休の取得も

進めさせていただいています。福井県の場合は、女性の育休の取得率というのは全国

でもかなり高いほうで、平均よりかなり高いんですが、男性はちょっと低いんですね。

そういう意味でも、男性の育休の取得というのをできるだけ進めていこうというふう

に思っています。まず「隗より始めよ」ということで、県庁でも始めまして。私は令和

２年度から県庁職員の男性の育休取得に強く取り組んできていまして、それまで、８か月なんてとても無理でしたけれど、１か月以上育休か育児で休暇を取るとか、１か月以上休みましょう、ということを男性の皆さんに奨励をして、令和元年度まではほとんどいなかったんですね。数えるほどもいないという感じでしたけれど、令和２年度には、２８．４％になって、令和３年度は　９３．１％です。

【司会】

　　９０％超えたんですか。

【知事】

　　福井県庁ではできるようになっている。どうしたかというと、上司の皆さんに声掛けをするんです。職員の皆さんがお子さんができます、というふうになったら、すぐに「どういう子育て計画？」と上司が聞いていって、それで「１か月以上育休取ろうね」という話をして、それを本人が計画に入れる。そうすると上司の皆さんが「じゃあ　それはやりなさい」と言うということにしたんですね。そうすることで一気に広がりましたので、またさらにこれを力入れていきたいなと。

　　　それからまた、国の制度も変わって、昨年の１０月から、「産後パパ育休」という制度もできましたので、産後すぐに育休を複数回取ることも可能ですので、こういう制度なんかもぜひ活用していただきたいなと思います。民間の企業さんにも　お声掛けしていきたいと思っています。

【司会】

やはり、会社の中で男性が育児休業を取得しやすい雰囲気をつくっていくというのが

大事なことなんですね。

【知事】

　　そのためには上司が変わる。上司が変わるためにも、さらにそのトップの社長さんとかトップが変わる。これが大事だと思っています。

【**（共家事について）**

司会】

　　舘さんは、男性の家事・子育てへの積極的な関わりを進めるといったことにも取り組んでいらっしゃいますけれども、取り組んでいる中で気付かれたことはありますか？

【舘】

　　やっぱりお父さんたち、家事や子育てやってみたいと思うんですが、自信がないとか、

　経験がないっていうことで、初めは、ものすごい緊張した表情だったり、そして、子どもたちもその中で緊張している表情がすごく見られるんですけど、イベントとか体験を通したあと、お父さんたちが子どもの手をつないで帰ったり、抱っこして帰って肩車したり、

あと、目を見ながら笑顔で話している姿を見ると、何かよかったなって、１時間とか２時間の時間でそうやって変わっていけるきっかけをつかんでくれたというのは、すごくうれしいなと思ってます。なので男性は、たぶん家事や子育てができないんじゃなくて、分からないだけなんだと。そういった男性たちが学びたいとか、やってみたいとか、夢をかなえたいというものを叶えられる機会を僕はもっと多くつくっていきたいな、というふうに思ってます。

【司会】

　知事、子育ても含めて、福井県がより暮らしやすい県になるためには、さまざまな支援制度や設備が整うだけではなくて、家庭の中での理解や協力が進むことも、とても重要ですよね。

【知事】

　そうですね。先ほど申し上げた会社の中の雰囲気が変わるということも大きいですけれども、やはり、家の中で家事を一緒にやる、楽しんでやっていく「共家事」ということもさせていただいています。福井県は、とても幸福度が高いんですけれども、例えば、家事・育児の時間の男女差とか、女性のゆとりのなさ、ゆとり時間のなさは全国ワーストクラスですので、こういうところの少し意識を変えていくというところも、皆さんと共に

考えていきたいなと思います。

【司会】

　やはり、夫婦一緒にゆとり時間をつくっていくということが大事になってきますね。

笠原さん、ここまで男性やご家族の育児休暇の取得や家事や子育ての積極的な参加について話してきましたけれども、いかがでしたか。

【笠原】

　　もう素晴らしいし、どんどん広まってほしいなって思います。さっき知事もおっしゃっていたように、私はまさに核家族で、夫も東京の人なので、近くに身内だったり親もいないので、自分たちでしなきゃいけないので、女性だけが、私だけが家事も育児もやる、それが当たり前みたいな見方をされると、非常につらくなってしまうなというのがあって。私も、働いたりするほうが結構好きなタイプで、逆にうちの夫は家事が好きなので、私より結構きれいにしてくれてたりとかすることが多くて。うちの夫婦の場合は、適材適所で役割を逆にすることもあってすごい助かりますし、そういうふうなことで子どもに優しくできて、心にゆとりができると、家の雰囲気もよくなりますし。子どもたちも、いらないストレスを感じなくていいなと思うので、もっともっと２人でやっていける環境が整って、社会もそういうのが当たり前というような雰囲気になってくれたらいいな、というふうに思ってます。

【知事】

　　今、笠原さんがおっしゃったとおりで、親のストレスが小さくなっていくと、子どものストレスも小さくなると思うんですよね。そういう意味では、子育ての支援というのはとても大切だというふうに思っていまして。それで今、福井県は「ふく育県」ということを発信をさせていただいています。「ふく育県」というのは、今もう福井県は、子ども１人当たりの子育て予算が日本一の状況にもなっていますし、これを発信していこう、ということで、キャッチフレーズを「親超優遇」という言葉で、「子育て県の福井」という意味

　　で「ふく育県」ということを今年これから、全国にいろんな形でテレビＣＭだったり、

それから新聞広告だったり、いろんな形でＰＲしていきたいと思っています。

**（今後の目標・抱負について）**

【司会】

　　まさに全国に広く発信していくことが大事ですね。

　　さて、最後に　新年ということで、皆さんの今年の抱負を伺いたいと思います。

ではまず、笠原さんからお願いします。

【笠原】

　　私、移住サポーターをさせていただいているので、私は福井に来てから、すごく楽しく、　穏やかに、心豊かに暮らせているので、そういったことを県外の人に発信すること。やっぱり福井でどういう生活ができるのかなっていうイメージが持てるかどうかというのが

すごく大事だと思うので、そういうものを知ってもらえるきっかけづくりであったりとか、やっぱりいろんなものが選べるところがいいなと思うので、選択肢を増やしていく

というところも努めていきたいなって思ってます。あとは何より、私が福井暮らしを楽し

んでより深めていくということを、もっとしていきたいなって思ってます。

【司会】

　続いて舘さん、お願いします。

【舘】

　もう僕はやはり、あと１０年たった時に、福井県が男性の育児休業の取得率が８０％

と、女性と同じぐらいに並ぶようにサポートしていきたいというふうに思っています。

そのためには、男性の家庭進出っていう形で、男性が家庭のことについて「やりましょう」ではなくて、楽しんでやりたくなるようなサポートを仕掛けていきたいなと。それでやっぱり福井県が日本一、世界一、お父さんたちの笑顔があふれている県、「パパ王国」って言われるぐらいな県になっていけるように、ひとつずつ、一歩ずつ進めていきたいなと考えています。

【司会】

　　知事、お二人のご活躍、今後楽しみですね！

【知事】

楽しみですよね！舘さんの笑顔見ていると、本当に「世界一幸せ」って感じしますから。

私もやっぱり、来年には北陸新幹線が福井・敦賀までやってくる。人の移動がとてもスムーズになる。そういう中で、「親超優遇」、「ふく育県」これを全国にどんどん発信して、

特に子育て世代、こういう人たちが夢を持って福井に来られるような、そんな移住・定住にも結び付けられるような社会にしていきたいと思います。

【司会】

　今日は、「都会が嫉妬する！幸福度・子育て日本一のふくい」をテーマにお話を伺いし

ました。

　舘さん、笠原さん、杉本知事、今日はありがとうございました。

【３人】

ありがとうございました。